



自公政権による改憲にむけた動きが急ピッチに。憲法にかかっている理想を実現する政治へ！

日本共産党埼玉県議会議員 前原かづえ だより

2022年 5月
第19号

発行
前原かづえ県政事務所
〒356-0050
ふじみ野市ふじみ野3-10-39
TEL 049-293-6316
FAX 049-293-6303

新河岸川治水対策など 県土整備事務所と交渉



業の概要と、今後の計画、および川越江川・福岡江川・砂川掘り雨水幹線の、内水排水との関係について（渋井水門拡張事業の完成とびん沼の開発との関係についても）

スマートインターの 安全対策

三芳スマートインターについて、伊藤初美市議が、ふじみ野市と三芳町境の八軒屋交差点の安全対策について質問。「もともと交通量の激しいところ。注意喚起の看板を付けるという予算はついたが、それだけでは不十分。片側だけの歩道設置でなく、両側に設置すべき。過去に事故が起きた所でもあり、安全な交差点整備計画なのか確認したい」と質しました。

県は、「用地買収や様々な課題をクリアしながら、4方向同じ広さの交差点にする計画ではある」と答えました。

スマートインターチェンジのフル化に伴う主要アクセス道路の安全対策について、担当部長は「審議会があり、短期、長期の計画の中で、県に関する内容は終わっている。町は予定通りに進んでるといっている」と説明。前原かづえ県議は「フル化については、ながい住民運動の

中で、国土交通省の許可の際に『周辺住民の意見を聞くように』と付帯決議がついている。私たちは、これまでアンケートも取り、交通安全対策が不十分なままのフル化は危険。安全対策が済むまで大型車の通行は禁止を訴えてきた。警察にも声を届けている。ぜひ、連携して安全対策を進めてほしい」と要望しました。

新河岸川治水対策について、「立て続けに起きる水害により、転居せざるを得ない。でも水害にあつた家は買手がつかない。深刻な状況がある。新たな調整地を作ってほしい」と田中氏が訴えました。

国道254三芳町役場入口交差点に 横断歩道の設置を



「片側だけの横断歩道でなく、安全な交差点にしてほしい」と要望が出されている三芳町役場入り口交差点。5月12日（木）午後2時より、県警と、県土整備、三芳町役場職員の現地調査が行われました。前原かづえ県議と吉村みつ子町議、住民の皆さんが立ち会いました。この交差点は、役場方面に行く人、駅に向かう人と、横断する際に、3回信号を待たなければならな

前原かづえ県議の 所属委員会を紹介します。

- ◇警察・危機管理防災委員会
- ◇少子・高齢福祉社会特別委員会
- 6月議会は 6月10日の議会運営委員会、正式日程が確認されます。
- （6月17日開会 7月7日閉会の予定 日本共産党の一般質問は秋山もえ県議（上尾伊奈選出）が登壇します。

- ① 国道と県道に関する事業予定箇所とその概要について
- ② 関越高速道路三芳スマートインターチェンジのフル化に伴う、主要アクセス道路の安全対策と交差点・歩道の整備について
- ③ 新河岸川の治水対策関係事

写真で見る前原かづえ活動ニュース

●4月23日(土) 2月県議会を報告



大井支所の2階ゆめぼろで行われました。コロナ感染拡大防ぐためにもいつでもどこでもPCR検査を受けられる体制、保健所の増設の問題やソーシャルワーカーの待遇改善など予算特別委員会の日本共産党の取り組み、の論戦を紹介。

●4月16日(土) 大宮駅で街角トーク 憲法の花咲く政治へ



3年前に伊藤岳さんを参議院に送りました。憲法を壊す政治を「このままにしておくわけにはいかない」と強く思い、多くの方が同じように感じたからこ

そ、市民と野党の共同が実現してきました。

いままた、平和と憲法9条守る正念場を迎えます。ウクライナへの侵略戦争の危機に乗じて、日本を戦争する国に変えようとする政治、このままにしておく訳に行きません。世論と結んだ論戦で、政治を動かす一日本共産党の議席を、強く大きくする時です。憲法いかし、希望ある日本に。憲法の花開く政治へと、前原かづえ県議が訴えました。

●4月16日(土) 第36回AALA総会で連帯の挨拶

総会では、ジェンダー平等と慰安婦問題に取り組んでいる吉川春子元参議院議員が、「戦争する国にさせない。戦後最大の9条の危機。力を合わせよう」と熱く訴え。前原県議も「プーチンは共産党ではない。旧ロシアの覇権主義を引き継ぐ権力者。軍事ではなく、平和外交で解決を。この声をがいっしょに挙げていこう」と連帯の挨拶をしました。



●5月3日(火) 憲法記念日 「憲法を活かす社会に」と宣伝



午後からは、東京の有明防災公園で1万5千人の集会が行われました。前原県議は、午前にはふじみ野市議団と、午後は鶴瀬駅前の三芳9条の会の方たちと、「憲法は変えるのではなく、憲法を活かす社会に」と訴えました。

●4月27日(水) イチゴの研究・開発を視察

水稻の研究・開発の現状と今後の取り組み、イチゴの研究・開発が行われている、熊谷市の県農業技術研究センターを視察。

育種は、1900年から、122年間継続している技術で、育種した品種は67品種になります。5年かけて育成し、病気に負けない、新しい品種として、おいしく、高温に強い品種を作るのに7年から8年かかるという説明でした。

県の農業を支え、県民の豊かな食と生活を実現する研究開発、技術支援を行っているセンターは、地球温暖化の中で、益々力を入れなければならない分野です。



●5月13日(金) 病院の統廃合問題について国会へ

衆議院会館で、総務省と公立病院経営強化ガイドラインについて、懇談しました。伊藤岳参議院議員、塩川鉄也衆院議員、梅村さえ子元衆院議員、柳下礼子・守屋ひろ子・前原かづえ県議、



「統廃合の病院」の名があがっている自治体の市議が参加。「コロナ禍の中で公立病院が果たした役割をしっかりと認識してほしい」と梅村さえ子元衆院議員が訴えました。



自公政権による改憲にむけた動きが急ピッチに。憲法にかかっている理想を実現する政治へ！

日本共産党埼玉県議会議員 前原かづえ だより

2022年 6月
第20号

発行
前原かづえ県政事務所
〒356-0050
ふじみ野市ふじみ野3-10-39
TEL 049-293-6316
FAX 049-293-6303

信号機・横断歩道など 県警に申し入れ

5月19日(木)ふじみ野市議団、三芳町議団、住民代表の田中さなえ氏が、信号機、横断歩道などの交通規制対策について、埼玉県警本部の交通規制課と懇談。事前に提出した要望書(ふじみ野市10箇所、三芳町7箇所)について説明を受け、参加者から、箇所ごとの課題について発言しました。



「上福岡のスクランブル交

差点で、利用者にアンケートを取った。40名の内8割が「渡り切れない」と回答している。改善してほしい」と、床井よしのり市議。

伊藤はつみ市議は、ピバモール・くら寿司前の交差点に歩行者用信号機の設置、大井武蔵野の三芳町界にある八軒屋交差点の歩行者道路の整備など、安全対策について再度確認。

足立しづ子市議は、さぎの森小学校西側の県道にある横断歩道に、押しボタン式信号機の設置について要望。

三芳町議団からの、ふじみ野高校入り口と大井中学校の中間にある横断歩道に押しボタン式信号機設置要望について、県は「検討する」と回答。

前原かづえ県議は「いずれも、開発によって車の交通量が多くなったり、流れが変わったりで、歩行者の安全が脅かされる箇所が増えている。日

本共産党は、アンケートや、現地調査を実施してきた。連携して交通安全対策を進めてほしい」と求めました。

「今回のことで、地元がや

医療ケア児支援の充実を要望

「今回のことで、地元がや」
らなければならぬことも見えてきた。条件を整えるために我々も頑張りたい。」と塚越ふじみ野市議団長が挨拶し、懇談は終了しました。

ターの運営は県が責任もって行うこと。保育施設や、短期入所施設など受け入れ支援施設の充実、関係機関の充実などの3項目。

伊藤はつみ市議も同席しました。
また、県議団は知事に「降雹被災者への支援策」を要望しました。

6月定例県議会は 17日に開会

一般質問に日本共産党は秋山もえ県議が24日(金)午後3時から行います。

一般質問項目

- ①降雹被災者への支援
- ②コロナ感染対策 PCR 検査の復活を
- ③気候危機問題
- ④ジェンダー平等 性暴力の根絶を
- ⑤住まいは人権。県営住宅縮小でなく、充実を図れ
- ⑥校則問題
- ⑦手話言語条例の推進を



医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律に基づき、本県でも医療的ケア児支援センター創設に向けて準備が進められています。日本共産党県議団も、再三質問で取り上げており、前原かづえ県議は、倉林明子参議院議員と、関係者と懇談するなど、取り組んできました。

7日(火)、知事に対して要望書を提出。内容は、セン

写真で見る前原かづえ活動ニュース

●5月21日(土) ロシアの国際法違反が明らかに



「ロシアのウクライナ侵略と日本共産党」と題した学習会が行われました。講師は、中央委員会・国際委員会事務局長の田川実氏。埼玉新聞社の記者を経て、党本部に入職。海外特派員も務めた田川氏の講演に、参加者から多数の質問が出され、活発な学習会となりました。「ウクライナへの

支援カンパ1億6千万円を大使館など、5か所にとどけた。その時に『日本の草の根の声を集めていただく活動に意義がある。ありがとう』と言われた。募金という活動で世論をつくる。日本共産党ここにあり！という感を強くした」と報告。
(写真は右から、伊藤はつみ市議、田川実氏、前原かづえ県議、宮尾りょう富士見市議)

●5月23日(月) 資材高騰で建設労働者は大変



戦争する国づくりと憲法改悪許さない建設労働者の集いが行われました。前原かづえ県議が「アスベスト問題や公契約条例の制定などの活動に取り組んでいる建設労働者の皆さんに敬意を表します」と連帯の挨拶。

会場からも「建設業は、資材の不足、高騰が相次ぎ、ガソリン価格の高騰もあり、車で移動する建設職人には大きな影響がある、仲間の仕事も暮らしも大変」の発言もあり、憲法改悪許さないの心合わせる集会となりました。
ふじみ野市、富士見市、三芳町、志木市、朝霞市、和光市、新座市議もそれぞれが連帯の挨拶を行い参加者から大きな拍手が送られました。

●5月14日(土) ふじみ野市スポーツ協会が3年ぶりの総会

総会と表彰式の開催あいさつで、風間会長は「コロナのクラスター発生は一件もなく、様々な制約の中で、好成績を収めた皆さんの努力に拍手を送りたい」と語りました。



前原県議も挨拶の中で、「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有すると憲法25条で詠っている。憲法が生きる社会をつくるために力を尽くしたい」と挨拶しました。(写真は、県のスポーツ功労賞を受けるレクダンスの代表)

●5月19日(木) 公営住宅の縮小は重大問題

「ZOOMハイブリッド 公営住宅縮小問題学習交流会」が行われ、党県議団からは秋山もえ県議が報告。その後、国民の住まいを守る全国連絡会代表幹事の坂庭国晴さんより「公営住宅をめぐる最近状況と国の方針、運動をどうすすめるか」との講演。



公営住宅の応募倍率は10倍20倍となっている団地もある一方で、募集しないで縮小する計画があり、重大な問題があきらかになりました。

●5月23日(月) 聴覚障がい児施設の充実を



県の難聴児支援の取り組みについて、草加市にある県立そうか光生園を、前原かづえ県議と秋山もえ県議(上尾・伊奈町選出)が視察。

令和2年に国が示した聴覚障害児支援中核機能モデル事業として、県内では、2か所(そうか光生園と、深谷にある皆光園)実施しています。県が100%出資していますが、3か年事業ということですが、重要性から期間限定でなく継続して行う必要があります。

視察は、聴力検査の機械説明や、親子で言語力の獲得を目的としたリズム体操を見学しました。手話通訳と保育士の資格を持った職員は、聴覚障害児とその家族にとって、大切な存在です。県内2か所だけでなく、さらに施設設置、事業拡大など、県の支援の充実を図っていく必要があります。
(写真は、保護者が作った、文字盤の前で)

●5月14日(土) 子どもの権利条約を生かそう

三芳9条の会総会が三芳町藤久保公民館で行われました。総会后、『子どもの権利条約を生かそう』と題して、子どもの人権埼玉ネット事務局員の斎藤紀代美さんが講演。「子どもの権利条約」は1989年に国連総会で採択された国際条約です。



前原かづえ県議は、「PTA活動をしていた時に、子どもたちに、どの権利が好きかアンケートを取ったことがある。その中で『遊ぶ権利』が第1位だった。講演を聞いて、いまだに子どもたちの権利が保障されない社会であることに大人の責任を感じます」と語っています。

●5月17日(火) 手話言語条例を生かして



県障害者交流センター内にある県聴覚障害者協会の皆さんが、手話言語条例の具体化について申し入れに来られました。

手話言語条例の学習を、ぜひ県議会で取り組んでほしい。聞こえない人の理解を広げる先頭に立ってほしい。と訴えました。

条例制定にあたっては、前原かづえ県議も、一般質問で取り上げ、議場での手話通訳者の配置が実現しています。「障害福祉計画の数値目標が、現実にあったものか、日々の変化の中で苦労されている障がい者の声に応えるために頑張ります」と、前原県議は語っています。



自公政権による改憲にむけた動きが急ピッチに。憲法にかかっている理想を実現する政治へ！

日本共産党埼玉県議会議員 前原かづえ だより

2022年 9月
第21号

発行
前原かづえ県政事務所
〒356-0050
ふじみ野市ふじみ野3-10-39
TEL 049-293-6316
FAX 049-293-6303

八軒家交差点の改良を事業化

8月9日(火) 前原かづえ県議とふじみ野市議団は、市内の国道・県道・新河岸川など来年度予算と当面の事業について、川越県土整備事務所と交渉を行いました。40項目にわたって要望しました。県道・さいたまふじみ野・所沢線関係では、ふじみ野市



要望書を手渡す前原かづえ県議 (右から2人目) 118月9日

と三芳町堺の八軒家交差点について、「右折車と歩道付きの交差点として整備する。新規事業として予算化したので、現在は測量をしている」との回答に、伊藤は「つみ市議は、現地調査の写真(写真左)を示して(写真左)、三芳ICフル化による大型車通行が予想され、交差点の拡幅と、歩道整備が必要であることを訴えました。東上線踏切の埼玉りそな銀行から、銀座バーバー前の信号機まで、歩道拡幅整備は、今年度から事業化され、県道・東大久保ふじみ野線の、大政建設前交差点北東側の道路拡幅については、整備に向けて調査が進んでいるとの回答がありました。



現地調査の写真を示す 伊藤はつみ市議(右)

前原県議は「毎年、市議団と一緒に交渉をしていく中で、

住民の皆さんの声を届けてきました。要求実現にむけて、これからも、国、県、自治体

国葬反対を県に要請

議員と連携して、すみよい街づくりをすすめたい」と語っています。



小池知事室長(中央)に申し入れ書を手渡す党県議団 112日、埼玉県庁

日本共産党埼玉県議団は2日、安倍元首相の国葬に反対し、弔意の強制を行わないよう県に申し入れました。柳下礼子団長は「安倍元首相を国葬にすることは法の下の平等や思想及び内心の自由に反する。どんな説明をしようとも憲法違反だ」と訴え、さらに「国葬の費用は不明確、国民の納得は得られない。弔意を強制するようなこともしないほしい」と求めました。小池要子知事室長は「国葬は国が判断すること。県から弔意を求めることはない。大野元裕知事にも確認してある」と答えました。

前原かづえ県議が一般質問を行います

9月県議会は、9月22日(木)開会されます。前原かづえ県議は、日本共産党を代表して9月30日

(金)午後3時から一般質問を行います。ぜひ議会傍聴にお出かけください。

写真で見る前原かづえ活動ニュース

●7月21日(木) 若い農業後継者とも懇談



知事のふれあい訪問で、三芳町にある石坂産業を訪問。里山の自然を残し、産業廃棄物を「廃棄物」として処分するのではなく、資源活用する中で、環境に優しい暮らしを体験できる場として、県内各地からもたくさんの方が来ています。この日は、町内の保育園児が、走り回っていました。その後、自然農法(落ち葉農法)や、イチゴ栽培に取り組んでいる若い農業後継者とも懇談。「安全な食料は、日本の大地から」その言葉をほうふつとさせる懇談でした。

(写真は、石坂産業に隣接する有機野菜のレストラン前)

●7月22日(金)・8月6日(土) 交通安全現地調査 スマートインター工事現場



7月22日の現場

地域から要望がある交通安全対策について伊藤はつみ市議と現地調査。

三芳スマートインターチェンジのフル化工事が進む中で、「交通安全対策が済むまで大型車の通行はさせるな」の声はますます重要です。陸橋の工事が急ピッチで行われています。車道は狭く、朝晩の周辺工場に通う自転車通勤の人が、危険な状態であることは明らかです。再度、周辺の道路の安全対策について、要請します。



8月6日の現場

(わずか半月で橋がかけられた)

●7月31日(日) 原爆死没者慰霊式典



伊藤岳参議院議員と参加。今年の原爆死没者のお名前が読み上げられ、奉納されました。「地球上から核兵器をなくす」その思いを語り継ぐ決意を新たにす式典でした。大野もとひろ知事のメッセージが読み上げられました。

●8月6日(土) 原爆と戦争展(三芳)伊藤はつみふじみ野市議と見学

三芳町藤久保公民館で行われた、「原爆と戦争展」(三芳9条の会主催)に、前原県議と、伊藤初美市議が参加。広島の高校生が、被爆者の話を聞いて、絵にした作品が展示され、「戦争は2度と起こしてはならない」のメッセージが発信されていました。



●8月4日(木) 温室効果ガス削減めざす水循環センター

県議団主催で、県内市町議員と、温暖化対策検討のため、三郷市の中川水循環センター(下水道処理施設)を見学しました。同センターは、2021年11月に「汚泥消化・バイオガス発電システム」を稼働させ、2つ以上の自治体にまたがる流域下水道として全国最大規模の年間1万7千トンの温室効果ガス(二酸化炭素換算)の削減を目指しています。「試算以上の削減が見込めそう」とセンター所長が報告。ブクブクとあわだっていた汚泥が、透明の水になるまでの、広大な施設を見学しました。(本名ひろし三芳町議と)



●8月12日(金)・20日(土) 高校統廃合問題



県教育委員会が県立高校12校を6校に統廃合する案を示した問題で、県議団は、関係団体の代表を招き、学習会を行いました(12日)

また、20日には、秩父地域の、市議、住民と懇談。革新県政の時に「15の春を泣かせない」と作られた県立高校。老朽化と、少子化を理由に統廃合を進めるやり方に地域の校長先生からも「撤回」を求める声が上がっています。少人数学級にし、先生の負担を軽くし、教育環境を整えることが今求められています。

●8月15日(月) 77年目の敗戦記念日宣伝

この日は、ふじみ野市議団が手分けして市内を宣伝。前原県議は、新井市議と宣伝。家からわざわざ出てきて声援を送ってくれる人もいて、「不戦の誓い」を新たにしました。午後は、大宮駅東口の伊藤岳参院議員と宣伝。



●8月28日(日) 日頃の訓練が大事



北本市総合公園で九都県市合同防災訓練が行われ、警察危機管理防災委員会の委員として前原かづえ県議が参加。時折激しく雨が降る中、震度7の地震発生を想定して、消防車、救急車、自衛隊などの救出作業が行われました。コロナ禍の中、2年ぶりに行われるリアル訓練に、「中々スムーズにいかないですね」「やはり、日ごろの訓練が大事」など、参加者から声があがりました。

●8月24日(水) 就労移行支援事業所を訪問

ふじみ野市内にある就労移行支援事業所を訪問。障害者総合支援法に基づき、働くために必要な能力やマナー、知識向上の訓練を行う場所。かつて、障がい者施設で働く経験を持ったご夫婦が、「その人がその人らしく、生きられる社会参加の道に出会ってほしい」という信念で、平成31年に開業。20人定員で、現在19人。それぞれの作業に向き合っている方たちの現場は、静かな安心感が漂っていました。



自公政権による改憲にむけた動きが急ピッチに。憲法にかかっている理想を実現する政治へ！

日本共産党埼玉県議会議員 前原かづえ だより

2022年10月
第22号

発行
前原かづえ県政事務所
〒356-0050
ふじみ野市ふじみ野3-10-39
TEL 049-293-6316
FAX 049-293-6303

9月県議会

「国葬」・統一協会で追及

9月30日(金)前原かづえ
県議は、日本共産党を代表して一般質問を行いました。



一般質問で前原県議は、安倍晋三元首相の「国葬」に対し、国民の考えが二分しているの、なぜ知事は出席したのか等追及、知事は行政の最高の責任者の葬儀のためと答弁。前原県議は統一協会とのかわり今後について質しました。知事は「前知事からの慣例でメッセージを出した。調査したら旧統一協会関連団体であることが分かり、大変ご迷惑をかけ申し訳ありませんでした」と議場で詫言、
「今後、個人としても県としても一切かわらない」と答

その他高校統廃合問題、学校給食無料化、コロナ対策等

特別支援学校の過密解消

9月9日(金) 前原かづえ
県議は、村岡正嗣(川口選



左から、村岡、前原、秋山県議

質問しました。詳しくは11月の「前原かづえニュースレター」で報告いたします。

出)、秋山もえ県議(上尾・伊奈)と、県立戸田翔陽高等学校の敷地内に作られた戸田かけはし高等特別支援学校視察しました。昨年4月に開校。151人の転入生で始まりました。直後の4月9日に82名が入学し、233人の学校となりました。高校生のみの特別支援学校です。とても広々として県産木材も使われていました。どこの特別支援学校でも、過密解消が課題ですが、同校の新設により、草加がやき特別支援学校の過密が緩和されたとのこと。

不登校生が「いっぽ」をふみ出す場

この日は、戸田翔陽高等学校敷地内にある不登校生徒支援教室「いっぽ」も視察。戸田市内の中学生で不登校の生徒が通える場所として埼玉県がモデル的に始めた県独自の取り組みです。前原県議は、一般質問で取り上げ、1か所だけでなくさらに広げるよう求めました。

コロナ対策でふじみ野救急病院を視察

9月21日(水)日本共産党
県議団は、第7派のコロナ感染状況と対策について、ふじみの救急病院を視察、院長からお話を伺い、院長自ら施設を案内して頂きました。

発熱外来棟にCTを設置して、
「発熱」でも、コロナでない他の病気の早期発見が可能な設備があります。PCR検査では病院に検査自体の出来る体制を整え、最速30分で結果を出せます。高齢者

の感染者には症状が落ち着い



左から、鹿野院長、村岡県議、前原県議、伊藤市議

た所で、理学療法士によるリハビリを行い、認知等の進行防止、早期の退院を実現するとともに、在宅看護でフォローしています。とくに院長は、学校現場での抗原キットによる全校児童検査の実施と、その一括管理が大事と力説されました。ふじみ野市議団の伊藤はつみ市議も同席しました。

写真で見る前原かづえ活動ニュース

●9月4日(日) 音楽は心を豊かに



鶴ヶ岡コミュニティセンターで行われた「夕涼み歌の音楽会」へ参加。コロナで、延期されていた企画です。ふじみ野市在住のピアノ弾き語りシンガーソングライターの中村友美さんの、すきとおった歌声が会場にひびきました。文化芸術は心を豊かにしてくれますね。

●9月16日(金) 「心の充電」の場の ひよこの家



前原かづえ県議は、柳下礼子団長、守屋裕子、秋山もえ県議と栃木県高根沢町立「フリースペースひよこの家」を視察。町議会のくらしづくり常任委員会委員長はじめ教育長ほかのみなさんのお話を伺い、案内していただき

ました。毎年、15人前後の児童生徒が通い、これまで150人ほどが卒業。ひよこの家では、決まったプログラムはありません。いつ来て、いつ帰るか、どのように過ごすかはスタッフや保護者と相談しながら自分で決めます。体育は、公用車で町の体育館に移動します。給食も運ばれてきます。

● 高次脳機能障害支援の充実を



9月8日(木) 高次脳機能障害者団体から「県が紹介している病院に行っても高次脳機能障害と診断されない」と訴えがあり、高次脳機能障害者支援センターの業務を行っている埼玉県総合リハビリテーションセンターを視察。左から、秋山文和、前原かづえ、柳下礼子、守屋裕子、秋山もえ県議

高次脳機能障害とは・・・交通事故や脳梗塞などで脳が破壊されたためにおこる障害です。

当センターは2021年から公営企業会計となっており、その影響や職員の欠員状況などについてもお話を伺いました。そもそも、高次脳機能障害だと診断できる医師が少ないという課題があります。リハセンとしても、どうしたら診断できる医師を増やすことができるかが課題だと話し、研修に力を入れているとの報告がありました。



また、9月17日(土) 前原かづえ・守屋裕子(川越選出)県議は、高次脳機能障害家族会「地域で共に生きるナノ」が開催したピアカウンセリング地域相談会に参加しました。

写真は、社労士さんや地域のデイサービスなど福祉団体など支援者のみなさんです。相談会には20人ほどの当事者と家族が集まりました。お互いの発言に対してほかの参加者が親身になって解決策を考え、アドバイス。

「一日中寝てばかりでなさけない」という方に、就労支援施設を紹介する意見や「今はゆっくりして」などの意見がでたり、「仕事を次々やめる息子の心がわからない」という声には、相談機関の紹介や自身の体験などが語られました。

●9月16日(金) 生活保護は当然の権利

生活と健康を守る会の県交渉の席で連帯の挨拶をする前原かづえ県議。憲法25条で示されている生きる権利・生活保護は当然の権利です。この生活保護申請に3時間もかかる、扶養照会をされるとか、持ち家だからダメなど、人権侵害的対応がされているという意見が出されました。この声を、9月県議会の一般質問で取り上げ、県は「申請をためらわせるようなことがあってはならない」と答弁しました。



●9月24日(土) 舟運の福田屋で音楽の夕べ



「福田屋で奏でるクラシック音楽の調べ」に伊藤初美ふじみ野市議と参加。演奏の前に、河岸記念館館長が、舟運で栄えた福田屋を案内し、新河岸川と、川越街道に挟まれたところを開通した東武鉄道による街の変遷が語られました。芸実の秋にふさわしい企画でした。

●10月1日(土) 石川氏が平和の大切さを講演



左から、伊藤市議、石川文洋さん、前原県議

ふじみ野市のフクトピアで行われた「平和記念フェスティバル」＝平和な世界 一人ひとりの思いから＝のサブタイトルで、多彩な集いがありました。市立花ノ木中学校吹奏楽部のハンドベルの演奏で始まり、4歳の時に自宅から3キロ離れた場所に原爆が投下され、28歳まで広島におられた方で、現在、市内在住のAさんが、体験を話され「こんな経験を子ども達にさせたくない」とむずびました。元朝日新聞記者の石川文洋さんが講演。ベトナム戦争、沖縄の本土復帰、など写真を示しながら平和の大切さを訴えました。





自公政権による改憲にむけた動きが急ピッチに。憲法にかかっている理想を実現する政治へ！

日本共産党埼玉県議会議員 前原かづえ だより

2023年1月
第23号

発行
前原かづえ県政事務所
〒356-0050
ふじみ野市ふじみ野3-10-39
TEL 049-293-6316
FAX 049-293-6303

迎春

憲法は変えるのではなく
活かしていく年に

ロシアのウクライナ侵略に乗じて、防衛費の増強を声高に叫んでいる人たちが暴走しています。軍事費拡大のための増税に対し、異論を唱える人は「非国民」と言わんばかりの報道があふれた昨年末でした。

旧年中は大変お世話になりました。二度と武器は持たないと誓って作られた日本国憲法。「今を戦前にしてはならない。憲法は変えるのではなく、活かしていく年に」その思いを強く胸に、新しい年を迎えました。今年、いっせいで地方選挙の年。頑張ります。

ふじみ野駅の外階段に 下りのエスカレーターを 東武鉄道と交渉



東武鉄道と交渉

三次元レーザレダー式踏切障害物検知装置など、高性能の検知装置の導入②ふじみ野駅に下りエスカレーターの設置、③県道東久保ふじみ野線の丸山踏切を拡張し歩道の確保、④上福岡駅とふじみ野駅にホームドアの設置など、8項目を提出。

「個別名称は避けて全体的にまとめた」として整理した東武鉄道に提出された要望書の9項目のうち、5項目は前原県議が提案したものが含まれています。

12月7日(水) 埼玉県議会
東武東上線利便性向上促進議員連盟が、東武鉄道本社へ要望書を提出しました。事前の要望集約の時に、前原県議は、①踏切の安全対策の向上を図るために

「3年前に、ふじみ野駅のエスカレーターについて要望した。その時は検討するとの回答だった。どういう検討がされたのか」と質問。「バリアフリーはエレベーター設置が基本。エスカレー

ターの場合は、設置箇所の規模や、駅改修の際に検討する。長い目で見てほしい」と東武側は

12月県議会

地域密着で、 ありがとうと 大野知事

12月県議会では、日本共産党から2名が一般質問を行いました。

守屋ひろ子議員は、7項目にわたって質問。9月議会で前原かづえ県議が一般質問で要望していた学校給食費の無償化を再度求めました。知事は、学校給食法の規定を理由に県の支援を否定しましたが、国の責任で具体的支援を示すよう、直接文科省に要望したと答弁。村岡正嗣県議も7項目。自治労連のアンケート結果、県職員

応じました。もう3年もたつています。けが人が出る前に何とかしなければなりません。

のサービス残業があることは重大問題と対応を求め、知事は、「サービス残業は絶対あつてはならない。勤務時間の適正な管理をする。」と答弁しました。また「コメ作ってメシ食えない」という米作農業、飼料の高騰で崩壊の声もある畜産農業などの実態を示し、埼玉の農業を守るための補助を求めました。

質問後の傍聴者との交流の席で、知事は「日本共産党の質問は、地域密着で、ありがたい」と挨拶しました。

保健所職員の増員実現 決算特別委員会

10月19日から11月4日まで行われた決算特別委員会。前原かづえ議員は委員として予算執行

について
検証。

2021年度は
コロナ感
染症対策
に終始し
た年とい
えます。
保健所職

員38人の増など、党県議団が繰り返し求めてきたことが実現されています。

節水型機器の普及や、社会生活の変化により、水の需要は変化しています。約50億円の負担金が見込まれる思川開発は、水道水の値上げにつながる事業であり中止すべきと主張。また、平和資料館の充実、消防職員の充足率向上、医師確保、特別支援学校の過密解消など、改善すべき点について質しました。



写真で見る前原かづえ活動ニュース

●10月29日(土) 横断歩道が設置されました



西鶴ヶ岡のカスマスーパー西側の住宅地と、日清製粉隣の住宅地を結ぶ横断歩道が新設されました。この場所は、旧NTT社宅の跡地に戸建て住宅が建ち、子育て世代も多いことから、信号機のある交差点まで遠回りするのは大変だからと要望されていました。前原県議は、住民と伊藤初美市議と現地調査を行い、埼玉県警本部に新設を要望していたところです。

●11月11日(金) 交通安全対策で三芳町、ふじみ野市に要望



関越道三芳スマートICの開通に合わせて、交通安全対策を進めるよう、前原かづえ県議と日本共産党ふじみ野市議団・三芳町

議団は三芳町長に要望書を提出しました。町は、開通時期は今後の工事状況があり公表できない。県と協議し、交差点の改良は進めていると答えました。しかし、大井中学校前の市道や県道の接続道路は、ふじみ野市まかせが明らかに。

前原県議らは、12月9日(金)ふじみ野市長に安全対策の要望書を提出、1月6日に懇談します。

●11月12日(土) ふじみ野市フクトピア展示室で「タンポポの仲間たち展」



障害を持つ子どもたちが、楽しく活動する場をつくりたいという思いから始まった絵画クラブ、陶芸クラブの作品展です。コロナ禍のため2年近く活動を中止していましたが、昨年秋から再スタート。製作者の笑顔が伝わってくる作品が勢ぞろいでした。

●11月12日(土)

秋晴れの下、3年ぶりの武蔵野まつりがカリヨン広場で行われました。カレーのお店には列ができるなど大盛況。楽しい交流ができました。



●11月23日(水)

側溝のふたの破損がひどい県道を調査、車いすの車輪が挟まって転倒したり危険。県土整備事務所へ要望、側溝のふたの一部が補修されましたが、計画的な全面補修が必要です。前原県議は県土整備事務所に再三要請。危険箇所の把握と、補修計画を立てて早急に改修するよう要請しました。



●11月16日(水)

川越市にある県立特別支援学校塙保己一学園は創立115年目を迎えます。児童生徒数108名の視覚障がい児者の学校です。12月議会で、川越選出の守屋ひろ子県議が、この老朽化した校舎の改修と、寄宿舎増築、Wi-Fi環境整備、増設を求めました。



写真は、学園を視察した時の前原県議と守屋県議。より多くの人に理解してもらおうと考案した、『ツエポン』というキャラクターです。

●11月18日(金) 例年行っている、来年度予算について国会要請行動に参加。



「いつでもどこでもPCR検査ができるようにして、コロナ感染防止を」「朝、熱を測って学校に行くように、PCR検査を行えば、早期発見、早期治療につながる。さらに経済活性化になる」という医師の意見を紹介し、要望しました。

●12月7日(水) 県立近代美術館で開催された第13回障害者アート企画展。



カラフルな色遣いで野菜や猫を描いた作品の前で、作者のお母さんと一緒にパチリ。障害を持ちながら、自分の想いを創作活動で、自由に表現する。一つ一つの作品が楽しさを語りかけていました。

●12月10日(土) ふじみ野市学園分館で議会報告会。

伊藤はつみ市議は12月議会で、「国保税の値上げの一方で、学校給食費無料化をしない。市には150億円の基金がある、市民の暮らし向上に使い」と主張したことを報告。

前原かづえ県議は、9月議会の一般質問で統一協会問題で知事がメッセージを送ったことを追及、知事は議場で謝罪した。など報告。

参加者から「実現したものは？」との問いに、前原県議は「信号機設置の基準を明らかにさせ、三角小入り口の信号機を設置、難病患者の手続きの簡素化と期間の改善ができた」と答えました。このように、前原県議は、各地で行われるつどいにも参加して議会報告を行っています。



●12月11日(日)

建設職人の皆さんが、「暮らしを守るには政治を変えなければ」と、学習会を企画。伊藤初美ふじみ野市議が、市議会報告、前原県議が12月県議会の報告をしました。報告の後には、日本共産党の政策が、もっと多くの人に届くようにわかりやすく話してほしいなどの要望が出されました。





自公政権による改憲にむけた動きが急ピッチに。憲法にかかっている理想を実現する政治へ！

日本共産党埼玉県議会議員 前原かづえ だより

2023年2月
第24号

発行
前原かづえ県政事務所
〒356-0050
ふじみ野市ふじみ野3-10-39
TEL 049-293-6316
FAX 049-293-6303

県議会の主な日程は次の通り

- 2月27日(月) 代表質問
- 28日(火)～3月2日(木) 一般質問
- 3月3日(金) 警察危機管理防災委員会
- 3月6日(月) 特別委員会
- 7日(火)～15日(水) 予算特別委員会
- 3月17日(金) 県議会最終日

医療的ケア児はじめ障害者の 自立・生活支援

朝霞市に児童相談所開設準備など予算化

新年度の予算を決める2月議会が2月20日から始まりました。埼玉県の新年度予算(案)は2兆2100億円で、3年連続で2兆円を超えました。

日本共産党は、代表質問はできません。(8議席以上必要)しかし、予算特別委員には、柳下礼子(所沢選出)、村岡正嗣(川口選出)県議の2人が出席します。1部局当たり制限時間内で、性暴力加害者相談窓口設置、家畜保健衛生所と農林部の職員増、教員の未配置、・・・などなど質問、提案を予定しています。

皆さんぜひ傍聴にお出かけください。



大軍拡問題で防衛省と交渉

2月2日(木) 塩川てつや衆院議員、伊藤岳参院議員とともに、航空自衛隊入間基地の強化問題について防衛省の担当官から説明を受けました。

岸田政権の5年間で43兆円、敵基地攻撃能力をもつ大軍拡計画のもと来年度の入間基地の予算措置で約210億円の予算がくまれており、C2輸



三芳ーC共用開始までに交通安全対策を

1月6日(金) ふじみ野市桜ヶ丘3丁目・大井武蔵野・三芳町大字上富・北永井の交差点、ふじみ野市道E-177号線(いるま野農協共販センター)角、カーブになっていて見通しが悪い。対向車が見えない。改善が必要とふじみ野市に要請後、伊藤はつみ市議と現地調査。

信号機を右折の表記が出る信号機に変える必要性を県警に申し入れました。

送機の受け入れや入間基地の抗たん性(敵の攻撃に耐えて基地の機能を維持する能力)の向上に使われます。

前原県議は「計画の内容について地域住民に公開しているというが、一方的な認識ではないか。大井通信基地のある自治体の住民としては国のやり方に不安である」と発言。

担当官は「国の防衛計画で公開している」と譲りませんでした。

左二人目から、塩川てつや衆院議員、伊藤岳参院議員、前原かづえ県議

写真で見る前原かづえ活動ニュース

●1月9日(月)「二十歳のつどい」に出席

「二十歳のつどい」が行われ、お祝いのメッセージを伝えるために、午前は三芳町のコピス会場前で新成人と交流。(コロナ対応のために三芳町は式典に来賓なし)。前原かづえ県議は参加者から写真撮影に快諾をいただき「半世紀前に二十歳でした」と記念撮影。

午後からは、ふじみ野市のステラリストで行われた式典に参加。恩師の紹介に会場がわきました。「今年は統一選挙の年。最賃1500円、学費半額実現のために、ぜひ選挙に行ってほしいですね」と前原県議は語っています。



●1月13日(金) 受験生を狙った痴漢加害防止と被害者救済の強化を。国会要請へ。

受験シーズンを迎え、受験生を狙った痴漢行為をあおるメールがSNS上に発信されるなど、許しがたい行為が行われます。県議団は、知事と、教育委員会へ警備強化と、受験生を守るための施策を求め、さらに共通一次試験の行われる前日に、国会議員団とともに、文科省など交渉。「痴漢は犯罪である」ことをアピールし、「受験シーズンのみでなく、痴漢ゼロ実現のため、政治・行政が頑張ることが大切です。」と強く要望しました。



●1月26日(木) 前川氏が「統一協会問題」で記念講演

入間東部労連の旗開きが行われ、前原県議は、県議会報告をかねて連帯の挨拶をしました。記念講演では、元文部科学事務次官・前川喜平氏が「統一協会と自民党の癒着」と題して語りました。



靈感商法などの正体隠しであることが明らかな「世界平和統一家庭連合」への名称変更について「実態に合わない名称変更は申請されても認証できない」と断った前川氏の態度に会場から拍手がわきました。

●1月24日(火) 年金裁判報告会で挨拶



「年金支給額の削減は憲法違反」と裁判で訴えている年金者組合の報告集会がさいたま市で行われました。

5月に判決が出される予定で、物価高騰の中、今年年金が0.4%引き下げ、来年度は0.6%も下げるのは憲法違反として頑張っている皆さんに連帯のあいさつをしました。

●1月31日(火) ふじみ野高校10周年記念式典に出席 挨拶



1978年に開校した大井高校。前原県議は挨拶の中で、当時の革新県政の下、「15の春を泣かせない」と県立高校が次々と開校。当時の人たちの「地域に高校を」の願いのもと、入り口は三芳町、建物はふじみ野地内に建っているエピソードを紹介。学校は地域コミュニティの核であり、ふじみ野高校の発展と、だれもお金の心配なく学べる社会にするために頑張りたいと述べました。

記念講演で、東京オリンピック女子柔道で優勝した新井千鶴さんの講演が行われました。

●2月4日(土)「女のくせに」という攻撃に負けなかった

男女共同参画フェアの企画「女性県議と語ろう」に出席。

「男性からのヤジにどうこたえる?」「議員を目指したきっかけは?」「ほかの会派との懇談はあるのか」などなど、様々な質問が出されました。日本共産党の柳下団長が県議になったとき「女のくせに」という攻撃に負けなかった実話などが披露され、「自分の頭で考えること」「人権意識を育てる教育が日本ではされていない」などなど、交流は多岐にわたりました。



●2月3日(金) 安全な学校給食 無償化を訴え

「安全な農産物の活用と、学校給食無償化を目指す埼玉連絡会」の署名活動に参加。浦和駅東口に15団体から80人が参加し、1時間ほどで、137人から署名が集まりました。前原県議は、9月議会、12月議会での県議団の取り組みを紹介し、「義務教育は無償とするとして憲法26条に基づけば無償化は必然です」と呼びかけました。

地域でも、住民の会の皆さんと伊藤はつみ市議とともに街頭で訴えました。



1月9日(月・祝) カリヨン広場

埼玉県がウクライナ語による相談をスタート 住まい・経済的困窮などへの支援求める一共産党県議団



ハウス内で、試験栽培のイチゴを試食する

お米は122年も育種が続いているとのこと。また、原原種という最初の種は零下30度に凍結保存していることも初めて知りました。埼玉県の農業の中心を担っている研究センターです。

研究者の方々の熱意に敬意を表するとともに、十分な予算と研究者の増員は政治の責任と痛感させられました。

4月27日、熊谷市にある埼玉県農業技術研究センターを、秋山文和、秋山もえ、前原かずえと私の4県議で視察。目的は、いちごとお米の開発について、現状を知ることでした。

消費者にも生産者にも喜ばれる品種開発が求められています。いちごも水稲も新品種として生産できるまで5年〜10年、根気のいる研究開発です。実際のイチゴ開発のハウスを見学し、開発中の「あまりん」「かおりん」「べにたま」を試食。普段食べているスーパードーナツのとは比べようのない甘く美味しいイチゴに感激しました。



水稲育種の担当官の説明を聞く

消費者にも生産者にも喜ばれる農業めざす 県農業技術研究センターを視察

外国人相談センターで関係者から話を聞く



「国をはじめ行政の支援情報が届いていない」「知っている情報しか伝えられない」など、課題も聞かれました。

外国人相談センターでは、ウクライナから避難された方々が安心して埼玉県に滞在できるように、ウクライナ語やロシア語による相談を受け付けています。

相談に応じている4人の相談員からもお話しを伺いました。「国をはじめ行政の支援情報が届いていない」「知っている情報しか伝えられない」など、課題も聞かれました。

ウクライナ避難民の支援強化を求めて 伊藤参院議員と県外国人相談センターを視察



川口駅前では議会報告する村岡など

CO2削減、脱炭素社会への対応など環境問題で 埼玉県環境科学国際センターを視察



センターの担当官の説明を受ける

4月26日、埼玉県環境科学国際センターを視察。

同センターは、環境問題へ対応する試験研究や国際貢献、環境科学の総合的中核機関です。秋山もえ県議と村岡が参加し、植松光夫総長とも懇談しました。総長のデスクには磁力で浮いた金属球がありました。

視察の目的は、CO2削減46%に向けての埼玉県の脱炭素計画における炭素量に関わり、電力排出係数の考え方について説明を受けることでした。

私が地中熱にも関心を持っていると知って、担当の研究者から説明も頂きました。感謝です。当センターの研究レベルは大学以上とも聞き、埼玉の誇れる財産と感じました。

お悩みやご要望など、ご相談も村岡へ

日本共産党県議会議員 2022年5月号 NO17
村岡まさつぐ県政ホットライン
(県政事務所ニュース)



発行 村岡まさつぐ県政事務所 川口市芝西2-26-20

☎ 048-485-8526

連絡先 党埼玉県議団 048-824-3413

f フェイスブックで発信中 ぜひご覧ください。

川口ハイウェイオアシス開園 —市議団と記念式典に出席—

4月23日、川口ハイウェイオアシスの開園記念式典に、川口市議団と出席しました。整備されたイナパーク(赤山歴史自然公園)と一体に作られたハイウェイオアシスは首都高初となります。一般道路や首都高からアクセス出来ます。式典には国会議員、県議員、市議会議員、経済界、地元



上 オアシス内の屋内のあそび場で



右 ハイウェイオアシス前で3市議と

町会、首都高速株式会社等々、大勢の関係者が参列しましたが、川口市長がコロナに感染し欠席の為、副市長が挨拶されました。

施設には子どもの遊具も沢山整備され、市内外からの利用が期待されます。

市内各地の街かどからも……

5月7日、8日、さらに14日と街かどから議会報告です。7日は金子市議、8日には板橋市議、さらに14日には井上市議と訴えました。



金子ゆきひろ市議と鳩板橋ひろみ市議とケ谷地内で5月7日 戸塚・安行地内で5月8日



井上薫市議と神根地内で5月14日



県民、市民の願い実現へ、市議、県議力をあわせ ……市内各地で議会報告……

万歳に見える手話の拍手 山崎すなおさんが指導



4月17日、芝北地区で春のつどいが開かれました。井上薫市議と村岡がそれぞれ議会報告。前市議の今井はつえさんもあいさつ。
この地域は前回議席を失い党市議がいません。30代の山崎すなおさんが立候補の決意。写真の万歳に見えるのは、山崎さんの指導で手話による拍手の風景です。

武力では戦争になってしまう 参加者も、ロシアの攻撃に胸痛め



4月20日、鳩ヶ谷西地域、5月15日、鳩ヶ谷里地域で金子幸弘市議と議会報告。
鳩ヶ谷西の参加者からはロシアによるウクライナへの攻撃に胸を痛め、参加者との交流でも、「武力に武力では戦争になる、国際世論でロシアを包囲する、と、頭で理解しても、でも、何とかならないものか？」の発言も。

“共産党も、もっと増やさなくては” 参加者から激励



4月24日、川口東地域、29日、西並地域、5月8日、横曽根地域と矢野ゆきこ市議と議会報告会が続きました。
川口東では、ロシアのウクライナ侵略への、県議会の抗議決議も紹介しました。
また、西並地域では、初めて参加したという方から、

西並地域の議会報告会
「共産党の信者(支持者)をもっと増やさないと。良いこと言っても議員を増やさなければ出来ないだろう!」と、厳しくも温かい指摘を頂きました。ありがたいことです。

“ロシアの侵略は国連憲章違反” 県議会の決議に反映させる



5月15日、戸塚地域で議会報告会、板橋ひろみ市議とお話しさせて頂きました。
県議会でロシアのウクライナ侵略に抗議する決議を全会一致で採択。その際、党県議団が国連憲章違反である旨を決議文に明記すべきと提案し、盛り込まれた経緯もご紹介しました。

まさつぐのティータイム(16)

「いこぞわしつたふれし少女よ」

映画「わが青春つきるとも」

伊藤千代子は100年前、貧困と社会の不平等をなくしたいと権力に抗して声をあげ24歳で亡くなりました。その不屈の生き方を描いた映画「わが青春つきるとも」が、先日、川口で上映されました。刑務所内で「赤旗」を歌うシーンは圧巻です。

銀座の試写会では出演した俳優さんから、「ロシアがウクライナに攻撃をした中で公開になったが、事実を学ぶことは未来のために必要だ」「ニュースを盲目的に取り入れることは危険だ」「取捨選択して主体性を持つて時代に参加し、未来に向かっていきましょう」などの挨拶がありました。暗黒の時代を懸命に生きた伊藤千代子の生命力は、若い俳優の皆さん方をも輝かせ、戦争国家への危機に直面する私たちを激励、勇気を与えてくれます。

ぜひ、ご覧ください。



“降ひようで、農作物が壊滅” 党県議団 現地調査し、埼玉県に緊急対策を求める

6月2日、3日に発生した埼玉県北部、東部の降ひようで農作物が壊滅的被害。3日、私は、直ちに、深谷、岡部、本庄など被災地を視察調査しました。県農民連の松本氏、県産直センターの山口代表にご協力頂きました。

トウモロコシ畑では1週間後の収穫予定がほぼ全滅。小麦農家では、18ヘクタールで収穫予定量100トンが全滅し、被害見込み1800万円。キャベツ1町歩も全滅。玉ねぎも全滅。最新のトマトハウスでは、20年の耐久とされた屋根がぼこぼこに破損していました。トマトもナスもカボチャも、壊滅状態でした。農家の方々は、今後については全く考えられず茫然自失。「頼みます」の訴えでした。



全滅状況のトウモロコシ畑で被害状況を確認する村岡など



副知事に要望書を手渡す党県議団と梅村さん

6月7日、党県議団は、降ひよう被災者への迅速かつ有効な支援を求める緊急要望を、高柳副知事に提出しました。県議団は、現地調査の結果を伝え、農業災害救済条例を速やかに適用すること、農業者への生活保障を行うこと、防ひようネットの補助率引上げなど、9項目を要望しました。

被害救済を求め、農民連も 埼玉県に要望書を提出

6月21日には、埼玉県農民運動連合会(会長、立石昌義)が、降ひよう被害の県知事あて要望書を県農林部長に提出し懇談しました。村岡が同席しました。再建するにも苗が入らない、ハウス再建では業者が見つからない、収穫直前で全滅している等々、農家の深刻な実態が語られました。



農民部長に要望書を手渡す農民連代表と村岡



全滅した小麦畑で、農家の実情を聞く村岡など

6月2、3日の降ひよう被害
6月2日、3日の降ひようによる埼玉県内の農作物などの被害総額は38億4,867万円でした。
6月17日、埼玉県は降ひよう災害を特別災害に指定し、6月県議会で復旧への支援に8億7500万円の支援予算を決定

6月県議会終わる 降ひよう被害支援予算8億7500万円可決



質問する秋山もえ県議＝6月24日

6月県議会では、24日、党県議団を代表して、秋山もえ県議が一般質問に立ちました。質問は、降ひよう被害、県営住宅、性犯罪被害、手話通訳、難聴、校則問題など多岐にわたりました。傍聴者との交流の場には、大野知事も見え、「いつも県民の声を届けて頂き、今日も勉強させてもらいました」と挨拶されました。35分間の限られた持ち時間、練りに練った質問は、鋭く圧巻でした。

- 質問項目**
- 1 新型コロナウイルス再流行に最大限の警戒を
 - 2 降ひようによる被害農家へ迅速かつ有効な支援を
 - 3 いよいよ待ったなしの気候変動対策、ラストランナー回避を
 - 4 真のシエンダー平等へ
 - 5 県営住宅は命綱
—住宅困窮者の願いにこたえ、拡充を
 - 6 手話言語条例に基づく施策推進と補聴器購入補助創設で、「聞こえ」のサポート強化を
 - 7 学校生活は、子どもたちとともにつくるもの

6月県議会の詳細については、県議団ニュースでご報告します。(8月発行予定)
6月県議会では、「埼玉県性の多様性を尊重した社会づくり条例」が可決されました。党県議団は、条例の目的に「人権が尊重される社会の実現」がかかげられたことなどから賛成しました。今県議会に提出された請願は2本。「インボイス制度中止を国に求める請願」と「一定の期間を定めて消費税をゼロにするよう国に求める請願」です。共産党はいずれも紹介議員となりましたが、自公などが反対し、不採択となりました。

お悩みやご要望など、ご相談も村岡へ

日本共産党県議会議員 2022年7月号 NO18
村岡まさつぐ県政ホットライン
(県政事務所ニュース)



発行 村岡まさつぐ県政事務所 川口市芝西2-26-20
☎ 048-485-8526

連絡先 党埼玉県議団 048-824-3413

フェイスブックで発信中 ぜひご覧ください。

深刻な「老障介護」のよりよい未来求め

—— 関係者が埼玉県と懇談

6月10日、障害のある方々の入所施設、くらしの場を求める皆さん方(当事者、家族、施設職員など)が埼玉県と懇談しました。村岡など党県議団も同席、川口市の山崎す



埼玉県と懇談する関係者と村岡など党県議団など

なお県政対策委員長も参加しました。

父親は90歳を越え、母親は80代、障害をもった子は60代、父親は、この子より1日も長く生きたい、と言っている、そう言わせる現状、発言に胸が締め付けられる思いでした。「老障介護」たった4字ですが、とてもなく深刻で重大な課題です。人としての尊厳がかかって

医療的ケア児支援センター充実を求め 党県議団が要望書を県に提出

来年、埼玉県では医療的ケア児支援センターを立ち上げます。この間、検討会議が続けられていますが、党県議団



要望書を手渡す村岡など党県議団

は6月7日、センターの役割と機能に関する要望を提出しました。行政のたらいまわしの起こらないよう務めること、保育施設、学校、就労支援施設、短期入所施設、入所施設など施設や制度づくりの推進にセンターも積極的に関与すること。運営は県の直営とすべきなどを求めました。川口から山崎すなお県政対策委員長も参加しました。

県民の願い、要望を県政に届けて…… 共産党県議

街頭、集会施設で —— 県議会報告をおこなう



5月18日、芝南地域で議会報告会。山崎すなお県政対策委員長が挨拶、私が議会報告。予算特別委員会の報告やロシア抗議決議などについてお話しさせて頂きました。

5月28日、街頭から訴えました。暑い中ですが、支部と後援会の方々が駆けつけてくれました。村岡が県議会報告をおこない、松本幸恵市議も訴えました。

県営住宅縮小計画が明らかに 公営住宅縮小問題学習会を開催



説明画面を見る 村岡など参加者

5月20日、党県議団主催、公営住宅縮小問題の学習交流会を、ZOOMハイブリットで開催しました。

2月定例会で、県営住宅の規模縮小計画が明らかになったことから、県下の議員や関係団体に呼びかけ、開催。講師には公営住宅問題の専門家に来て頂きました。公営住宅が縮小され、業界団体の政治圧力とそれに同調する政党の存在が指摘され、いきなり、問題の本質が明らかに。

同時に、法解釈や運用での自治体の弱点、議会の果たすべき役割も指摘されました。参加者から、「公営住宅に入れて本当に助かった。公営住宅は増やして下さい」、この発言が全てを語っているようでした。

秩父の違法土砂堆積問題 業者逮捕で一步前進 —— まだ、解決への道のりは遠い! ——



6月23日、秩父市田村の違法土砂堆積問題、その張本人が、埼玉県警に逮捕されました。この違法堆積は、2009年2月、県の許可を受けた会社が、建設残土を搬入したことから始まりました。この間、県の是正命令、勧告も無視、県は業者を告発しま

したが、この時は不起訴に。2020年7月、土砂崩落が発生し、蒔田川をせき止め、周辺の田畑を押し流しました。

この問題で地元の共産党市議の連絡を受け、党県議団が最初に現地に入ったのは2011年。これは村岡が県議となり初の現地調査でした。あれから11年。悪質業者の逮捕だけでは解決にはなりません。現地には違法土砂が堆積されたままです。まだ、道のりは遠いが、一步前進です。



現地調査する村岡と党県議など 2020年7月

まさつぐのティータイム (17)

お盆に想う……

…… 頭を叩かれ嬉しかった

母が亡くなる少し前の夏、施設に訪ねた時のことです。認知症がすすみ息子とも分からなくなっていた母は窓際に立って外を眺めていました。

私は長椅子に誘いました。こちらを向いて歩いてきた母は、いきなり座っていた私の頭を何事か言って「ポンポン」と手で叩きました。離れたテーブルから様子を見ていた二人の職員さんは目を丸くしました。60過ぎの大男の頭を小さな老婆が叩いた、「何事が起こったのか?」驚くのは無理もない。でも母の顔は決して怒ってはいません。何も無かったのだ。いや、あっても構わなかった。4人兄弟の長男でおばあちゃん子で育ちました。

母親に叩かれた記憶のない私は、嬉しかった。親がいることのありがたさを楽しみ感じました。お盆の季節になると想い出します。



9月定例県議会は 9月22日～10月14日開催 前原県議が質問(予定)

9月定例会は、9月22日開会、10月14日閉会の会期で開催されます。

党県議団からは、前原かずえ県議が一般質問(9月30日)に立つ予定です。質問項目(案)は次の通りです。

- ・コロナ第7波対策、生活困窮者支援
- ・頻発する豪雨災害
- ・県立高校統廃合問題
- ・県職員欠員問題
- ・不登校引きこもり対策
- ・LGBTQ多様性尊重条例の実施
- ・若年被害女性等支援事業の実施



コロナ対策の強化求め埼玉県に緊急要望をおこなう県議団(7月27日)

高校統廃合計画は和光国際高校と和光高校、岩槻高校と岩槻北陵高校、秩父高校と皆野高校、越生高校と鳩山高校、八潮南高校と八潮高校、大宮工業高校と浦和工業高校の12校を6校に。

現場の声・県民の運動と力を合わせて・・・ ・・・要求実現に奮闘 — 党県議団

大野県政の3年と党県議団(1)

大野県政に変わって3年となります。共産党県議団は、現場の声・県民の運動と力を合わせ、要求実現に取り組んできました。

この度、長い間求め続けてきた「子ども医療費窓口無料化」が実現し、10月から就学前までを県が無料化します。過密が指摘されている特別支援学校は全県で分校新設10校、増築6校がおこなわれています。また、医療的ケア児への支援も繰り返し求めてきましたが、来春に支援センターが立ち上がることが決まりました。

子ども達への虐待問題が深刻ですが、新たに児童相談所の増設も決まりました。学校の厳しすぎる校則問題も繰り返し取り上げ、県の教育委員会を動かし全校実態調査が行われました。

私たちが共産党県議団に対して、大野知事は、「共産党の皆さんには、県民の声、小さな声も届けて頂き、本当にありがたい」と言っています。

課題もあります。DX・マイナンバーカードの推進、国保税の統一化問題、県立高校の統廃合、メガソーラー乱開発などです。これらの問題の大本は国の政治です。党県議団は引き続き、県民の利益のため、国会議員団や地方議員団と連携して奮闘してまいります。



大野知事に2022年度予算編成に関する要望書を手渡す荻原初男党県委員長と村岡など党県議団(2021年10月19日)

特別支援学校の開校、増築
新たに、全県で分校開校10校
増築校 6校
川口市関連では
2023年度 川口特別支援学校鳩谷分校開校
2026年度 川口特別支援学校の校舎増築

国・県への予算要望で各団体と懇談 党県議団と伊藤、いわぶち参院議員が参加

国も自治体もこれから2023年度の予算編成作業に入ります。党県議団と国会議員団は、8月29日から31日の3日間、県民要求運動に携わる団体と懇談を行いました。国会からは伊藤岳参院議員と岩淵とも参院議員が参加、各現場の深刻な実態、切実な要求が多数寄せられました。予算に生かせるよう全力を尽くす決意です。

なお、この間、党県議団は、県立高校の統廃合問題での交流会や、医療・介護・保育・自治体の労働組合による「医療・福祉充実のための処遇改善を求める要請書」提出に立会うなどに取り組んでいます。



初日の懇談会の風景

懇談会参加団体

埼玉連、埼玉士建、社保協、医労連、保険医協会、民医連、埼教組、私教連、農民連、埼商連、母親大会、民青同盟、私保連、生健会、平和委員会、子ども・若者支援ネットワーク、年金者組合、新人、きょうさん、障埼連

8月15日、川口駅前で訴える

8月15日、終戦記念日。

村岡は、伊藤岳参院議員、塩川鉄也衆院議員、松本さちえ、板橋ひろみ、矢野ゆき子、井上かおる各市議と山崎すなお県議予定候補、ふじしまともこ市議予定候補とともに、川口駅前で、平和を守る決意を訴えました。



駅前で訴える村岡(左端)など

お悩みやご要望など、ご相談も村岡へ

日本共産党県議会議員 2022年9月号 NO19
村岡まさつぐ県政ホットライン
(県政事務所ニュース)



発行 村岡まさつぐ県政事務所 川口市芝西2-26-20
☎ 048-485-8526

連絡先 党埼玉県議団 048-824-3413

フェイスブックで発信中 ぜひご覧ください。

まさつぐのティータイム(18)

若い力にバトンタッチ!

私は今期をもって県議を引退し、山崎すなおさんと交代します。1999年の初当選以来、市議・県議と皆さまに支えられ、ここまで働くことができました。心から感謝申し上げます。

山崎すなおさんは、いま37歳、この3月まで県立高校の教師でした。山崎さんは言います。「教育現場を退職して政治の世界に挑戦するのは、硝煙の匂いにする昨今の動きに危機感を感じたから」「子どもたちに、平和と民主主義をしっかりと残すために働きたい」と語っています。とりわけ、未来を担う子どもたちの教育環境の改善に、教師経験をもつ山崎すなおさんは大きな力を発揮すると信じています。



汚泥浄化で温室効果ガス削減に取り組む・・・
・・・中川水循環センターを視察する



場内でセンター職員の説明を聞く参加者のみなさん

8月4日、党県議団と9つの市町議員、川口からは山崎すなお党市県政対策委員長らも参加し、三郷市にある中川水循環センター(下水処理場)を視察しました。

同センターでは昨年11月より、汚泥消化バイオガス発電システムを稼働させ、計画上では年間1万7千トンの温室効果ガスの削減を図ります。これは微生物を活用した汚泥消化で汚泥の減容化を実現して、汚泥焼却処分の燃料となるガス及び運用電気の軽減化でCO2を削減する。さらに、発生したメタンガスで発電してこれを売電することでCO2削減を図るシステムです。

県の説明では計画を上回る結果が出ているとのこと。本視察のテーマは「温暖化対策に自治体として何ができるか?」ですが、参加者からは「大変参考になった、下水道処理の仕組みも知ることができた」、との感想が出され、企画した者としてほっとしました。



センター内を職員のご案内で視察する村岡県議と山崎氏

「平和とくらしを守ろう!」
市内各地で議会報告など



鳩ヶ谷中央地域の報告会



鳩ヶ谷里地域の報告会



板橋市議と戸塚地域で

特別支援学校、不登校支援教室を視察

70分のバス通学者も

9月9日、村岡など党県議団は、開校2年目の県立戸田かけはし高等特別支援学校と、不登校生徒支援教室「いっぽ」を視察。

校長先生などからご説明頂きました。全生徒数は260人、川口市から189人通っています。通学バスは8台で、最長距離の通学者は東川口から約70分。駅近なので徒歩通学、自転車通学も多いと。

別棟の不登校生徒支援教室「いっぽ」は、まだ出来たばかり。様々な事情で不登校となった生徒も、ここでの学習が出席扱いとなります。実際の授業は9月から



「かけはし」校舎内を視察する



職員の説明を受ける

国葬反対を!

県知事へ申し入れる

9月2日、県議団は大野知事へ「国葬に反対し、弔意の強制を行わないことを求める申し入れ」を提出しました。対応した小池要子知事室長は、「弔意を強制することはありません」と答えました。また、「県庁としての対応については、国からまだ何ら連絡がないので、未定」との答えにとどまりました。

なお後日、知事は「国葬参加は議会開会中なので、議会を優先することに」と記者会見のべました。



知事室長に申し入れる党県議団

8月26日には、井上市議と神根地域で、板橋市議とは戸塚と安行地域で議会報告です。自作のプラスタターなどをもって、地域の皆さんが駆けつけて下さいました。

8月21日、鳩ヶ谷里地域の議会報告会。金子市議が市政報告、村岡が県政報告、山崎すなお党市県政対策委員長もあいさつ。

8月28日、鳩ヶ谷中央地区で議会報告会。金子市議が市政報告、村岡が県政報告、山崎すなお党市県政対策委員長があいさつ。会場からは、「顔を合わせると元気が出る。笑顔になったのが嬉しい」などの声も。

「国葬」と統一教会、コロナ問題など 前原県議が一般質問で……9月県議会速報

9月県議会は10月14日閉会。9月30日、党県議団を代表して前原かづえ県議が一般質問に立ちました。（詳細は県議団発行の県政ニュースレターにて報告予定）
質問から、「国葬」と統一教会、コロナ問題を……。

質問① 「国葬」参加問題では？

知事：「国葬」は閣議決定された国の行事

党県議団は大野知事に対し、2度、「憲法違反の国葬に参加すべきでない」と申し入れてきました。しかし、知事が参加したことを受け一般質問で、その理由を質しました。

知事は「閣議決定された国の行事であり、知事あてに出席要請を受けたため出席した」「半旗掲揚については、行政の長を務めた方に対し県として弔意を示すべきと考えた」「中曽根元首相の葬儀の際と考え方は同じ」と答弁しました。



「国葬」問題で申し入れる
11月9日

質問③ コロナ対策では？

知事：全数把握見直し容認 PCR検査拡大は困難

新型コロナウイルス感染症での全数把握の廃止問題では、国に撤回を求めざるべきと迫りました。

知事は「全国一律で制度の改正に伴い、その課題の多くは解消したものと考える」と答弁しました。高齢者・障害者施設職員のPCR検査の通所施設や利用者への拡大については、「現時点でお答えすることは困難」との答弁でした。



前原質問の後、傍聴者に挨拶する
大野知事（中央）と党県議団

女性県議と県女性幹部職員との交流会開催

9月2日、コロナ感染のため中止していた女性県議と県女性幹部職員との交流会が2年ぶりに開催されました。

今年度は、部長級、副部長級、そして課長級も含めると、女性の幹部職員は50人ほどです。知事には、くり返し要望していますが、今後はぜひ、副知事3人のうち、少なくとも1人は女性を、と願っています。

それにしても、党派を超えて、仕事の肩書きを脇においてつながれるというのは、本当に楽しい！（秋山もえ県議のニュースより）

：現在、県議会での女性県議は11人、そのうち共産党県議は4人です……



女性の県幹部職員と女性県議のみなさん

質問② 統一協会問題では？

知事：「質問いただきありがとうございます」

統一協会問題では、質問で、統一協会系団体である世界平和女性連合のイベントにメッセージを送っていることを指摘。知事は、本年度もメッセージを送っていたことを認め、過去の知事時代から恒例のものであったと説明、「この団体が信用に足るといふような印象を受けた方が

おられるとすれば、誠に申し訳ない。改めてお詫びを申し上げます。」と謝罪しました。「今後は関係を持つことは一切ありません」と答弁。その後の傍聴者集会で、知事は「旧統一協会について説明することができ、質問して頂いてありがとうございました」と挨拶しました。

大野県政の3年と党県議団（2）

あいつく水害、迫る大地震、複合災害に備える 48市町村へ災害救助法適用（2019年、台風19号）

党県議団は災害発生たび、ただちに現場を訪問し被災者の声を聞き、県政に反映させてきました。国には被災者支援制度がありますが、被害世帯が少数の場合は適用されません。この問題を議会で取り上げ、2014年に「埼玉県市町村安心支援制度」が実現しました。

また、党県議団は災害発生の際がある場合、そのつど事前に県に災害救助法の適用を要請してきました。前上田県政では適用はありませんでしたが、大野県政となって、2019年の台風19号の際には、災害救助法が48市町村に適用されました。適用によって、避難所運営などの費用が全額県と国の負担となり、地元市町村の負担がなくなります。



2019年、台風19号で秩父市中津川の県道崩落で食料を運ぶ村岡

お悩みやご要望など、ご相談も村岡へ

日本共産党県議会議員 2022年10月号 NO20
村岡まさつぐ県政ホットライン
(県政事務所ニュース)



発行 村岡まさつぐ県政事務所 川口市芝西2-26-20
☎ 048-485-8526

連絡先 党埼玉県議団 048-824-3413

フェイスブックで発信中 ぜひご覧ください。

まさつぐのティータイム (19)

「格差が広がり続ける社会のなかで、そのしわ寄せを強く受ける子ども、女性、高齢者、障がい者、外国人。社会制度の不合理により、「普通の生活」を送ることが難しい人々とたくさん出会ってきました。

すべてのひとが人間らしく、尊厳をもって生きられる社会。日本国憲法が掲げる理念を実現するのが政治の役割です。政界に圧倒的に不足している女性・子育て世代の視点で、だれもが大切にされる埼玉の実現をめざします！

山崎 すなお



川口から共産党県議を必ず……

— 山崎すなおさんの決意 —

「格差が広がり続ける社会のなかで、そのしわ寄せを強く受ける子ども、女性、高齢者、障がい者、外国人。社会制度の不合理により、「普通の生活」を送ることが難しい人々とたくさん出会ってきました。

秩父中津川地区で大規模土砂崩れ発生 ……

…… 現地調査し、支援強化を県に要望



土砂崩れ現場 (右)
現地調査する村岡など (上)

翌日、県へ緊急要望

現地調査の翌22日、調査を踏まえ、県危機管理防災部の渋澤副部長に対して、住民の一人一人の実態把握と生活支援、道路復旧の長期化を見通した冬季の対策などを申し入れました。

県からは秩父市とも連携してしっかり対応する、必要であれば防災ヘリ隊との連携も相談済みです、との回答でした。



危機管理防災部に申し入れる

9月13日、秩父市の中津川地区で大規模な土砂崩れが発生し、県道は通行不能に。発生から1週間ほどたった9月21日現地にも、前原かづえ県議と村岡が現地調査に。県道の通行不能で影響を受けている住民は16人。現地住民から、「県道復旧には相当な時間がかかりそう。林道での往來は可能で、電気、水道、食料等は何とかなりますが、医療や介護が必要となった場合が本当に心配」との不安な声が寄せられました。

県政と共産党県議団の働き語り — 各地で議会報告 —



神根地区のつどい



柳崎北園地区のつどい

9月21日、神根地区で、山崎すなお県議予定候補を囲むつどいが開かれ、井上市議と私も同席し、県政報告をしました。山崎さんが決意をこめて挨拶。その後、皆さんから質問や要望が寄せられました。悪天候にも関わらず70名近くが集まり、元気をもらいました。

9月17日、柳崎北園地域で秋のつどいが開催されました。山崎すなお県議予定候補、藤島ともこ市議予定候補、井上薫市議、村岡も参加し、県政報告をおこないました。自由な交流では、初めて参加の方もおられ、率直な意見も出され、新鮮なつどいでした。

「コロナ感染対策でふじみの救急病院を視察する」

9月21日、コロナ感染対策で党県議団は、ふじみの救急病院を視察、鹿野晃院長からお話しを伺いました。院長自ら施設をご案内頂きました。



病院内で鹿野院長の説明を聞く

当日も、発熱外来やPCR検査の患者さんが大勢でしたが、驚いたひとつに、発熱外来棟にもCTを設置していたことで、PCR検査では病院に検査自体の出来る体制を整え、最速30分で結果を出せることです。高齢者の感染者には症状が落ち着いた所で、理学療法士によるリハビリを行い、認知等の進行防止、早期の退院を実現するとともに、在宅看護でフォローしています。とくに鹿野院長は、「学校現場での抗原キットによる全校児童検査の実施と、その一括管理が大事」と力説されましたが、大変、得心できるものでした。「命を救うことが、何よりも最優先する」、鹿野院長のこの言葉が胸に響きました。

「信号が見えない！」 住民の苦情に、即日対応



街路樹の葉で左の信号が見えない

9月23日、「葉っぱで信号が見えない！」と産業道路の芝地区の住民から苦情です。さっそく現地へ。街路樹で信号が見えなくなっていました。「危険だ」。即日、さいたま県道整備事務所へ要望。県から、「直ちに対応する」の回答を得ました。

訂正 10月号の鳩ヶ谷中央地域、鳩ヶ谷里地域の報告会の写真は入れ違いました。